College report

東京聖栄大学報

vol.21
2019.10

かつしかの元気食堂

食品学科 実験

体育祭

就職ガイダンス

成績優秀者表彰

CONTENTS

学長メッセージ／大学トピックス…… 2・3
管理栄養学科／食品学科の活動…… 4・5
研究関連…… 6・7
学生支援センターの活動／地域共創・食育イベント…… 8・9
学友会／後援会／聖栄会／人事…… 10・11
平成30年度決算報告／教育研究施設設備充実募金… 12・13・14
附属わたなべ幼稚園／附属調理師専門学校…… 15
大学トピックス／学生募集要項…… 16

学長メッセージ

学長
田所　忠弘

「食」専門人材育成力こそが大学の未来を担う！

魅力ある「食」の専門大学創りは、重要なテーマです。一方、世界的な「食」の潮流も、地球人口増・食料確保vs自然環境バランス上の持続的存続を考えなければならない状況にあります。現在食材となっている大・中動物からより小・昆虫・微生物や植物主体の小型化と繁殖、培養化への移行は必然です。「食」教育の在り方も新たな科学技術導入と同時に食材に対する新価値観も感性の中に育成できるよう授業内容にも反映すべき時代かと思います。大学使命の柱、時期世代の「食」人材育成には、多彩なベテランと若手教員そして大学職員が一丸となって科学教育プラス実践力に加え新創造性付加可能な環境作りにも力点を置いた教育支援体制充実化が必要と考えています。皆様どうぞご支援の程宜しくお願い申し上げます。

大学トピックス

筒井 知己先生名誉教授の称号

令和元年６月20日付で、筒井知己先生（現図書館長）に本学名誉教授授与規程に基づき、名誉教授の称号を授与することに決定しました。

筒井知己先生は、46年間に亘り本学園に勤務し、そのうち29年間は教授職として教育研究に邁進され、多忙の中にあっても多くの学内要職を務められました。また、平成27年４月から食品科学教育協議会の会長として社会や食品産業界の要望に応えられる人材の養成を目指してご尽力されています。

＜農学博士、研究分野：食品科学関連＞

大田原 美保先生「論文賞」を受賞

食品学科教授 大田原美保先生が、公益社団法人日本食品科学工学会の学会誌に発表した論文「圧縮米飯粒の色と画像解析による飯の老化評価」が、学術の進歩に寄与する優れた論文として「論文賞」受賞されました。令和元年８月29日（木）藤女子大学において開催された、第66回日本食品科学工学会の大会にて表彰されました。

大田原先生は、食品科学工学に関する研究発表や研究成果の普及、情報の提供を行い科学、技術、文化の発展と国民の食生活の向上にご尽力されています。

片山 克行先生　春の叙勲

令和元年５月21日付にて本学非常勤講師　片山克行先生が春の叙勲で瑞宝中綬章受章の栄に浴されました。永年に亘る調停委員としてのご貢献に対する「調停委員功労」並びに「教育研究功労」の功績により今回の受章となりました。

片山先生は、平成18年４月より本学非常勤講師として奉職され、現在は両学科において「日本国憲法」「倫理学（総論部分）」をご担当されるとともに、本学の「研究倫理審査委員会」の学外学識経験者として、多大なご尽力を頂いております。

谷本 守正先生学会賞を受賞

令和元年８月23日（金）に本学非常勤講師　谷本守正先生が、日本酪農科学会の「酪農科学シンポジウム2019」において学会賞を受賞されました。受賞題目：「カゼインミセルの物理化学的解析と応用に関する研究」

日本酪農科学会は、日本の酪農･乳業に関する学術ならびに産業の発展に寄与することを目的に大学、産業界、官界の研究者が集ってできた学会です。

谷本先生は、平成23年より本学非常勤講師として奉職され、現在は食品学科において「食品製造機械」をご担当されて本学にご尽力を頂いております。

フードサイエンティスト説明会の実施

食品学科４年次生を対象に令和元年９月６日（金）にフードサイエンティスト資格認定の説明会が実施されました。

フードサイエンティストは、筒井知己名誉教授が会長を務められている「食品科学教育協議会」が認定している資格です。この資格は、協会が定める科目を全て履修かつ協議会が行う講習会を受講し、課題審査に合格すると「食品科学技術認定証」が授与され認定されます。食品に関する科学的な知識を基本に食品関連の技術者として働くスペシャリストに与えられ、企業や研究施設などで食品の研究開発を行い、食品検査などの現場で活躍できます。この資格は第１期生から第11期生まで280名が取得しています。

管理栄養学科の活動

新入生宿泊研修

新入生94名を迎え入れ、平成31年４月２日～３日の２日間にわたり、東京スポーツ文化館にて新入生宿泊研修が行われました。研修内容としては、管理栄養士基礎演習、国家試験対策、臨地実習に関する講義や在校生による教職課程における教育実習内容やドイツ海外研修に関するプレゼンテーションがあり、さらに教員も加わり様々なグループワークやレクリエーションがありました。

新入生は、仲間づくりをしながら管理栄養士の国家試験対策の重要性や大学生生活全般について学びを深めました。

全員集合

講義

グループワーク

臨地実習（保健所実習の一環として「葛飾区産業フェア」に参加）

平成30年度保健所実習として10月19日～22日「葛飾区産業フェア」に参加しました。保健所健康づくりコーナーを担当し、来場者への食育クイズを通して健康・食生活の大切さを伝えました。

食育クイズとパネルは事前に学生が考え、実習先の管理栄養士の方々からアドバイスを頂き、子どもにも理解できる内容で実施しました。文章表現、視覚的な工夫等教材作成のポイントを学ぶ貴重な体験となりました。

臨地実習報告会（病院・介護施設）

令和元年６月22日に臨地実習（病院・介護施設）の報告会が開催されました。

この報告会は、４年次生から選出された運営委員によって企画から準備、当日の運営を行っています。４年次生は実習内容や得られた成果、今後に向けての抱負を報告し、３年次生及び教職員と情報共有を図りました。

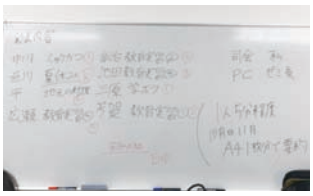
研究室紹介

食品衛生学第２研究室（星野　浩子助教）

食品の多様化、国際化などで食品をめぐる環境の変化は著しく、あわせて国民の健康指向が増大してきています。その中で、最も重点を置いているのは食品の安全性確保です。食品を調理・加工する時の大前提となり、食中毒予防の衛生対策や微生物制御のみならず有害な化学物質等についても科学的に検証し、幅広い視点から食品衛生について探求しています。ゼミでは13名の学生と、管理栄養士国家試験の勉強に実験や実習を取り入れながら、「食べ物と健康」分野を学習しています。

教育学第１研究室（有村　久春教授）
教育学第２研究室（田中　広美講師）

本ゼミでは、栄養教諭や学校栄養職員等をめざすことを中心に生き方の基本である教育学を実践的に学んでいます。ゼミ長を中心に、自主的な学びを共有し合うことを大切にしています。主な内容は、栄養教諭・公務員の試験対策、松上小学校でのボランティア活動（毎週２～４人で分担）、就職活動の実際と生き方の学びなどです。これらの学びを活動報告としてゼミ内プレゼン発表会を年に２回程度行う計画です。また、国試対策にもエネルギーを傾注します。



ゼミ計画の話し合い

プレゼン発表

食品学科の活動

新入生宿泊研修

食品学科は新入生67名を迎え、新入生の研修を、平成31年４月２日～３日（１泊２日）で栃木県日光市において行いました。大学生活４年間を通して学生の皆さんが、将来の夢や希望を叶える充実した学生生活を送ってほしいと思います。

FA

FB

食事情海外研修

イタリア海外研修が平成31年２月11日～18日（８日間）において22名の学生が参加して行われました。食文化と歴史と共に実際の調理講習ではパスタ作りを体験しました。

フィールド研修

２年次生が令和元年９月３日～５日（２泊３日）において長野県伊那市にてフィールド研修を行いました。各社の食品メーカーや馬肉加工工場等の見学、農業実習等を行い、食品の業界を直接的に体験する有意義な機会となりました。

研究室紹介

英語第１研究室（植芝　牧准教授）

英語第１研究室には現在３年次生３名が所属しています。卒業後に海外の大学や専門学校に留学を希望しています。海外留学には英語力が要求されるため、今から対策が必要です。そのためにIELTS（アイエルツ）の受験を希望している学生がいます。また、TOEICを今年中に全員で受験する目標を掲げています。また、英語を苦手としている学生に対しては、基礎的な学習を行っています。英語の基礎学力の向上と資格試験への挑戦が当面の課題です。

食品加工学研究室（片山　佳子准教授）

医食同源という言葉があるように、食生活は私たちの健康維持に重要な役割を担っています。食品には栄養源や嗜好を楽しむだけでなく免疫や内分泌および神経などの生体調節機能があり、病気の予防にも役立っています。食品加工学研究室では、国内外の食品に目を向け食品中に含まれる成分を分析し、加工特性を調べるとともに健康維持に寄与する機能性成分について明らかにしていく研究を行っています。

研究関連

科研費
KAKENHI

科学研究費とは、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、文部科学省及び日本学術振興会が取り扱っています。

○東アジア調査に基づくベーチェット病、強皮症の特異的HLAが病態に関わる機序の研究
基盤研究（B）（海外学術調査）　研究代表者：竹内　二士夫教授

この研究で対象としているベーチェット病は日本やトルコに多いシルクロード病とも言われている原因不明の炎症疾患です。強皮症は皮膚の硬化や特異的な自己抗体を特徴とする代表的な自己免疫性疾患です。これら二つの疾患にはHLA（組織適合抗原）と呼ばれる自己と他を認識して免疫に関与する遺伝子が関係している事がわかっていますが、このHLAが病態に関与する機序は明らかではありません。

昨年度は強皮症に関連するHLAと強く結合するアミノ酸配列がある事を計算化学的に証明し、雑誌Scientific Reportsに発表しました。今年度もHLAの関与を疫学的に明らかにし、病態形成における役割を計算化学的、免疫学的に検討する研究を進めていきます。そして、食物アレルギーの研究や、薬剤の開発にも役立てたいと考えています。

○米飯類の冷蔵による食味低下を視覚的かつ定量的に示す品質評価法の構築とその応用
若手研究　研究代表者：大田原　美保教授

炊飯直後の米飯は透明感があり、程よい硬さと粘りを持ち美味しいものですが、保存のために冷蔵すると外観や食感の変化が生じて食味が低下してしまいます。食品産業界において、食味低下を客観的に捉える評価法の確立と炊飯後の品質制御は重要な課題です。我々は冷蔵によって米飯の透明性が低下する現象に着目し、厚さ0.1mmに機器で圧縮した米飯粒の顕微鏡観察を行い、その画像解析で捉えた変化から食味低下を視覚的・定量的に捉える新しい手法（以下、圧縮米飯粒法）を検討してきました。本手法は現在、白飯以外の飯への適用条件を検討して汎用性を高める段階にあります。本研究では、外観、味、物性が異なる米飯の圧縮米飯粒法のデータを蓄積し、官能評価や客観的測定値との相関関係を総合的に分析して、様々な米飯類の冷蔵による食味低下を視覚的かつ定量的に示す品質評価法の構築を目指しています。

○「日本人高齢者における骨格筋量と筋血流量の関連」
若手研究　研究代表者：膳法　浩史講師

加齢に伴う筋量と筋力の減少（サルコペニア）について研究を行っています。我が国はどの国も経験したことのない超高齢社会の国であり、15年後には３人に１人が高齢者であると推計されています。世界中が日本の高齢化対策の動向に注目しています。この研究では、いかに高齢者が自立して健康なままで生活できるかを目標に活動しています。そのためにメカニズムが不明であるサルコペニアを解明することで高齢者の自立した生活を支援できるのではないかと考えています。具体的には、高齢者において血流量の減少がサルコペニアに関係しているのではと仮説を立てており、そのデータを蓄積していきます。本研究では、血流を測定するために超音波エコーを購入しました。大変活躍してくれています。

○「スポーツ傷害（靱帯損傷・筋損傷・疲労骨折）を規定する機能的遺伝子多型の解明」
基盤研究（B）（一般）研究分担者：膳法　浩史講師（代表：福　典之　順天堂大学准教授）

スポーツ傷害は競技力に対して単にマイナスに影響するだけでなく、時として選手生命さえも脅かすことがあります。スポーツ傷害の予知として遺伝子情報が活用できるのではないかと考えています。具体的には、競技アスリートを対象として靱帯損傷、筋損傷、疲労骨折といったスポーツ傷害に関連する遺伝要因について、全ゲノムDNAを対象とした網羅的遺伝子多型解析という手法を用いて明らかにします。共同研究者と協力することで既に千人を超えるアスリートのDNAを得ています。スポーツ傷害に関連する遺伝子とその機能を解明することで、個人対応型のスポーツ傷害予防法の開発に貢献することを最終目標としています。私が分担している研究の作業としては遺伝子解析であり、いわゆるビッグデータを扱っています。日々進化する解析技術についていけるよう、最新の情報を仕入れるよう心掛けています。

特別研究・共同研究発表会

令和元年６月29日（土）に平成30年度特別研究・共同研究発表会を開催しました。田所学長による開会挨拶に始まり、福田亨教授による特別研究『神経系による骨代謝調節機構の解明』を始めとした教員による特別研究４題、共同研究においては小林陽子教授等による『「食育サポーター事業 in 葛飾区」の取り組み（第６報）』を始めとした４題を合わせ、計８題の研究発表がなされ、質疑応答も活発に行われました。

「平成30（2018）年度 東京聖栄大学 特別研究・共同研究」発表会

日時：令和元年６月29日（土）　13：00 ～ 16：00　会場：431教室

◎発表者・研究題目

No.	代表申請者	研究別	研究課題
1	鈴木　三枝　教　授	共同	幼児期の食生活習慣について 「幼稚園児の食育事業」・食育指導のための幼稚園児及び保護者の生活習慣と食習慣に関する調査（第３報）
2	小林　陽子　教　授	共同	「食育サポーター事業 in 葛飾区」の取り組み（第６報）
3	吉田真知子　講　師	特別	幼児を持つ保護者の食教育におけるグループ体験学習が行動変容に与える影響 ～好き嫌いをテーマとしたプログラムの実施～
4	大塚　静子　准教授	共同	給餌方法の違いによるタンパク質ならびに脂肪摂取量がラットの腎臓石灰化を引き起こす因子アデイポネクチンへの影響（Ⅱ）－対給餌－
5	膳法　浩史　講　師	特別	終末糖化産物（AGEs）の体内蓄積とサルコペニア、身体活動の関連
6	矢島　克彦　助　教	特別	栄養素代謝と睡眠時脳波を含む生体リズムに関する研究（飽和脂肪酸、または一価不飽和脂肪酸の介入研究）
7	福田　　亨　教　授	特別	神経系による骨代謝調節機構の解明
8	片山　佳子　准教授	共同	落花生味噌の抗がん作用

矢島先生は平成30年度の役職です。

令和元（2019）年度　特別研究・共同研究

本学教育研究取扱要項第２項及び第３項の規定に基づき、特別研究・共同研究を毎年度募集しており、申請された研究課題については、研究推進委員会において審査し採否の決定をしています。本年度の特別研究・共同研究計画申請について以下の表の通り採用決定しました。

令和元年度　特別研究・共同研究計画申請者一覧

No.	代表申請者	研究別	研究課題
1	福田　　亨　教　授	特別	神経系による骨代謝調節機構の解明
2	大田原美保　教　授	特別	米飯の初期老化に及ぼす調味料添加の影響
3	大塚　静子　准教授	共同	給餌方法の違いによるタンパク質ならびに脂肪摂取量がラットの腎臓石灰化に及ぼす影響について（Ⅲ）―調整食給餌―
4	風見　公子　准教授	共同	幼児期の食生活習慣について
5	片山　佳子　准教授	共同	落花生の抗がん作用
6	小林　陽子　教　授	共同	食育サポーター事業 in 葛飾区
7	小林　陽子　教　授	特別	地域子育て支援拠点における乳幼児を対象とした食育に関する研究
8	吉田真知子　講　師	特別	幼児を持つ保護者の食教育におけるグループ体験学習の導入 ～好き嫌いをテーマとしたプログラムの実施　（継続研究）～

学生支援センターの活動

学生支援・就職支援

学内企業説明会

大学祭チャリティ寄付

防火・防災訓練

アセスメントテスト解説ガイダンス

マナー講座

インターンシップ対策ガイダンス

学生支援関係行事一覧

開催日	行事名
平成30年12月18日	学生と学長をはじめとした教職員の意見交換会（全学年の代表学生）
平成30年12月15日･16日･20日	日本学生支援機構奨学金貸与者対象適格認定説明会（１～３年次生）
平成31年３月15日	第11期生卒業式
平成31年４月１日	第15期生入学式
平成31年３月29日･30日、４月２日･３日	新年度ガイダンス（全学年）
平成31年４月11日･12日	日本学生支援機構奨学金高校時予約採用者説明会（１年次生）
平成31年４月17日･19日	日本学生支援機構奨学金在学採用希望者説明会（全学年）
令和元年５月24日	特待生・成績優秀奨学生授与式（１～３年次生）
令和元年６月25日･26日	日本学生支援機構奨学金返還説明会（全学年）
令和元年６月20日	大学生活におけるマナー講座（１年次生）
令和元年７月４日･10日	定期試験学務課ガイダンス（１年次生）
令和元年７月３日･４日･10日･11日	学生支援センター夏期ガイダンス（全学年）
令和元年７月17日	国の教育ローン利子補給奨学生授与
令和元年10月２日	防火・防災訓練（全学年）

行事名の（　）内は対象学年です。

地域共創・食育イベント

地域共創・食育イベント行事一覧

開催日	行事名
平成30年10月６日	新小岩駅東北ひろばまつり2018
平成30年10月８日	かつしかスポーツフェスティバル2018
平成30年10月10日	地域美化プランター秋花苗植付
平成30年11月９日～11月11日	『聖栄葛飾祭』において後援・共催事業協力 （一社）全国栄養士養成施設協会 （公社）日本フードスペシャリスト協会
平成30年11月９日～11月11日	第19回 新小岩文化祭
平成30年11月11日	かつしか健康食育フェア2018
平成30年11月17日～11月18日	かつしかフードフェスタ2018
平成31年３月19日	地域美化プランター春花苗植付
平成31年３月11日	第５回かつしかふれあいＲＵＮフェスタ2019
令和元年５月19日	第43回わんぱく相撲葛飾区大会

開催日	行事名
令和元年６月８日	公開講座（健康栄養講座・管理栄養学科 講師　吉田真知子）
令和元年６月12日	葛飾警察署による犯罪防止キャンペーン協力
令和元年６月15日	公開講座（運動実践講座・管理栄養学科 講師　膳法浩史）
令和元年６月16日	食育読み聞かせ会
令和元年８月25日	第１回わんぱく相撲女子全国大会
令和元年８月31日	新小岩駅前祭り
令和元年10月19日	公開講座（調理のコツ講座・食品学科 教授　大田原 美保）
令和元年10月26日	新小岩駅 東北ひろばまつり2019
令和元年12月７日	公開講座（調理実習講座・附属調理師専門学校 教員　村上　匡）

上記以外のイベントにも参加協力等を行っております。

キャリア・就職データ

平成31年３月卒業生就職結果

第11期生（平成31年３月卒業生）の就職率（就職希望者比）は、管理栄養学科は昨年に引き続き100.0％、食品学科も100.0％内定（昨年度98.6％）で、学部合計100.0％（昨年度99.4％）でありました。これは文部科学省集計の全国の大学卒業生の就職率97.6％を上回り、開学以来最高値の結果でありました。また、実質就職率【就職者/（卒業者－大学院進学者）】を見ると、96.7％（昨年度95.2％）であり、就職希望者比の就職内定率とともに開学以来最高値の結果でありました。

【卒業者153人／就職希望者数148人／就職決定数148人／大学院進学者０人】

本学の就職活動は、学生・保護者・教員・学生支援センターの連携により行っています。卒業生の多くは学業に関連した業種職種に就職しており、卒業生が就職先で大いに活躍することを期待しています。

進路・就職結果

卒業者数	153人
＜就職希望者数＞	＜148人＞
就職決定数	148人

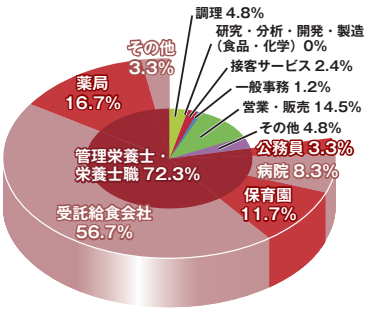
主な就職先

【管理栄養士・栄養士職等】
（公務員）神奈川県栄養士、市川市栄養士
（病院）（独）国立病院機構　関東信越グループ、（医）IMSグループ、（医）順江会　江東病院
（給食受託会社）エームサービス㈱、㈱グリーンハウス、㈱ケイ・エフ・ケイ、ジャパンウェルネス㈱、西洋フード・コンパスグループ㈱、㈱センダン、㈱日京クリエイト、㈱ニッコクトラスト、日清医療食品㈱東京支店、ハガクレフード㈱、フジ産業㈱、富士産業㈱、㈱藤江、㈱メフォス、㈱LEOC、㈱レパスト
（保育園）㈱アルファコーポレーション、㈱こどもの森、㈱ジェイキッチン、ライフサポート㈱
（薬局）ウエルシア薬局㈱、㈱クリエイトエス・ディー、㈱スギ薬局、㈱スマイルドラッグ、日本調剤㈱、㈱富士薬品、㈱マツモトキヨシ
（その他）ウェルネスダイニング、㈱ケイ・エス・オー
【研究・分析・開発・製造（食品・化学）】
アイワイフーズ㈱、イニシオフーズ㈱、㈱シュクレイ、白ハト食品工業㈱、㈱爽健亭、トオカツフーズ㈱、戸田フーズ㈱、㈱ニッセーデリカ、平塚製菓㈱、フジフーズ㈱、プライムデリカ㈱、㈱文明堂東京、㈱メルヘン、山崎製パン㈱、わらべや日洋㈱
【営業・販売】
イフスコヘルスケア㈱、㈱サンドラッグ、㈱セブン＆アイ・フードシステムズ、RIZAP㈱、㈱レパスト㈱、㈱アントステラ、㈱カスミ、コンフェックス㈱、㈱スーパーバリュー、東京ガスオールワンエナジー㈱、㈱ぱぱす、㈱マルエツ、㈱洋菓子舗ウエスト、㈱LEOC
【調理・接客サービス】
㈱ABC Cooking Studio、㈱サザビーリーグ アイビーカンパニー、㈱エー・ビーカンパニー、㈱エーステクノロジー、エームサービス㈱、㈱銀座ルノアール、常磐興産㈱、㈱すかいらーくホールディングス、タリーズコーヒージャパン㈱、（福）つくし会　栗原つくし保育園、㈱ブロンコビリー、㈱ポッカクリエイト、㈱ヨシックス、リゾートトラスト㈱、㈱和僑商店、㈱イートウォーク、銀座アスター食品㈱、明治記念館
【一般事務】
㈱インターコマース、㈱エイジェック

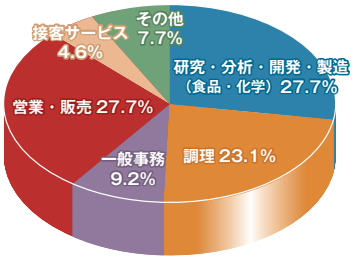
第11期生(平成31年3月卒業生)の就職状況（就職率100%）

職種別就職先グラフ

●管理栄養学科（就職率100.0%）



●食品学科（就職率100.0%）



令和２年３月卒業生就職内定状況

㈱リクルートキャリア等の就職情報会社によると、今年度の大卒求人倍率は1.83倍と、前年の1.88倍より0.05ポイント下落。８年ぶりに減少したが、高水準を維持し、リーマンショックで求人倍率が大幅に低下した2010年以降で２番目の高さとなりました。本学の４年次生の就職内定状況（８月31日現在）は、学部合計で78.7％でした。学科別には、管理栄養学科が78.4％、食品学科が79.1％でいずれも昨年と同様の傾向にあります。

しかしまだ内定を得ていない学生も多数いるため、本学では今後も全力で就職支援を継続します。関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

わんぱく相撲葛飾区大会 わんぱく相撲女子全国大会 に協力

令和元年５月19日（日）第43回わんぱく相撲葛飾区大会において、総合司会・副審・模擬店で協力しました。また、８月25日（日）第１回わんぱく相撲女子全国大会では、学生がボランティアスタッフとして協力しました。

模擬店協力

女子全国大会

公開講座

本年度は、健康栄養講座（吉田真知子講師）、運動実践講座（膳法浩史講師）を実施しました。健康栄養講座は食育についての講義を、運動実践講座では寝たきりにならないための講義に加え、運動を実践しました。10月には、大学講座として「調理のコツ講座」（大田原美保教授）を、12月には附属調理師専門学校講座として「調理実習講座」（村上匡教員）を実施予定です。

運動実践講座の様子

学友会活動

会長挨拶

学友会会長　管理栄養学科３年次生
二階堂　紗月

今年度、学友会会長に就任致しました管理栄養学科の二階堂紗月です。今年度の学友会総会を無事に終え、新入生歓迎会は多くの新入生や在学生で賑わいました。体育祭では、当日の気温が高くなることから、お昼までの短縮プログラムで行われました。その結果として、体調不良になった学生がなく、皆様のご協力により無事に終えることができました。また、11月には『聖栄葛飾祭』が行われます。学友会の活動を通して、身近にある「食」や地域での活動をさらに活発化させ、結びつきを深く太いものにしたいと考えております。学友会は、学生の大学生活がさらに充実し、活動しやすいものになるよう精進致します。これからも皆様のご支援、ご協力よろしくお願い致します。

学友会総会、部・同好会説明会

４月９日（火）に学友会総会、部・同好会説明会を開催しました。総会では新役員の選出や2018年度決算報告及び2019年度予算案等の審議が承認されました。また、部・同好会説明会では、各団体の活動紹介が行われ、新入生や在学生の学生団体間の理解も深まりました。

学友会総会

部・同好会説明会

新入生歓迎会

４月16日（火）に新入生歓迎会を開催しました。菓子文化研究家の原亜樹子先生による「アメリカの食を通して考える食文化」の特別公演をいただき、原亜樹子先生の実体験を追い、エピソードを交えてお菓子にまつわる歴史等のお話し下さいました。また、参加者全員に原先生からのご好意で先生が執筆された「お菓子のレシピ本」を提供してくださいました。特別公演後、新入生・在学生対象に特別抽選会を行い、学生間の学年を超えた交流を深める良い機会となりました。

新入生歓迎会（特別講演会）

体育祭

５月25（土）に本学船橋グラウンドにおいて体育祭が開催されました。今年は開催当日の気温が高くなり、学生の体調面を考慮してプログラムの内容を短縮して行いました。短い時間ではありましたが、体育祭実行委員会や学友会・学生が一丸となってプログラムを進行することができたので、学生の人気が高い競技「お楽しみレース」を追加して行うことができました。総合優勝に輝いたクラスは１NBクラス（１年次生管理栄養学科）となりました。全員元気に１日を終えることができ、学生間、教職員との親交を深める有意義な機会となりました。

競技、表彰式の様子

聖栄葛飾祭

11月９日（土）、10日（日）に『聖栄葛飾祭』（大学祭）が開催されます。今年度のテーマは「新時代へ～健康で未来に笑顔を繋ごう～」に決定しました。葛飾区の後援や地元自治会の協力を得て、より地域の方との繋がりを深めたいと考えております。今年度はさらに催し物を増やし、活性化を目指しております。皆様のご来場心よりお待ちしております。

（昨年の様子）

令和元年度　部・同好会一覧

部・同好会の各団体は、大学生活をより充実させるために、学生が中心となって活動に励んでいます。バドミントン部やバレーボール部、バスケットボール部、サッカー部等が様々な大会に出場しています。今後も大会に参加して実績を重ねて大学PR活動と併せて本学に貢献できるよう頑張ってもらいたいと思います。

部名	学生代表	
食品加工研究部	2017FB11	高須　涼兵
調理実習部	2016NB25	秦野　真希
硬式テニス部	2017FA30	北野　大樹
合気道部	2017FA08	石黒　詩織
バレーボール部	2017NB19	中村　瑠香
バスケットボール部	2016FB39	山田　柾
バドミントン部	2017NA03	井川　雛
軽音楽部	2018FB03	朝比奈　結衣
パン部	2017NB13	渡久地　絵美理
サッカー部	2018NB39	山本　成観
ソフトテニス部	2018FB09	丹野　恭子

同好会名	学生代表	
ダンス同好会	2017FA26	小澤　茉以
あぐり	2017FA29	川名　のどか
野球同好会	2018NA12	岩田　俊一朗
聖栄ビアヘルピングワークス	2018NA18	柏木　彩華
吹奏楽同好会	2018FA35	佐藤　帆奈

サークル名	学生代表	
カヌーサークル	2017NA01	阿久根　萌香
カバディーサークル	2016NA33	風見　祐助

後援会の活動

後援会会長
野田　哲三

令和という新元号が発表された４月１日に入学式が挙行され晴れやかな中に新入生を迎えました。その後の後援会総会とともに本年度の後援会活動がスタートしました。

東京聖栄大学は大学として14年を迎えられ、教職員のご指導のもと先輩方の努力により『食と栄養』のエキスパートを育てる教育機関として着実な歩みを進めていることは喜ばしい限りです。

後援会は学生の皆さんが有意義な学園生活が過ごせるよう、学友会活動の補助、就職・社会活動への協力、教育事業の支援など大学の発展・向上に寄与できるよう努めていきます。また大学と保護者との密接な連携を図るため、教職員との懇親会の開催や、後援会会報の発行を行ってまいります。後援会は本学の発展を期待し、学生の皆さんを支援しています。

後援会の主な活動

令和元年度

○保護者懇談会開催　10月12日（土）
　保護者と教職員の情報交換会
○後援会会報の発行
　（年２回発行予定）
　10月１日付
　３月15日付
○会議の開催
　定期総会　　４月１日（月）
　役員会　　６月15日（土）
　　３月上旬予定

聖栄会の活動

聖栄会会長
髙橋　興亜

令和元年６月２日（日）東京聖栄大学同窓会「聖栄会」総会を開催し、平成30年度事業報告、決算報告、令和元年度事業計画案、予算案及び新役員の選出につき、すべての議案が満場一致で承認されました。今年は、元号が平成から令和へと改元された節目の年であります。

聖栄会活動として新しい年にするべく、会員の集まる機会を多く持ち、また在校生との交流等が促進できるように、会則を更に検討を加え母校と連携を図りながら、より良い会運営を図ってまいります。

聖栄会の主な活動

令和元年度

４月　聖栄会だより発行
５月　体育祭への協賛参加
６月　定期総会並びに懇親会開催
10月　食文化研究会
　「フランス料理の研修」
11月　大学祭への参加協力
　（休憩・談話室設置）
３月　卒業生への記念品贈呈
【その他】役員会の開催（年４回予定）

人事について（順不同　敬称略）

職　員

■昇　任　令和元年７月１日付
法人事務局総務部総務課 係長
（大学図書館 司書係長 兼務）
鈴木　敦子
（法人事務局総務部総務課 主任
大学図書館 主任司書 兼務）
大学事務部学生支援センター
学生支援・就職支援課 主任
中村　太一
（大学事務部学生支援センター
学生支援・就職支援課 課員）

■採　用　令和元年６月24日付
法人事務局総務部総務課（臨時）
下田　史子

教　員

■退　職　令和元年５月13日付
大学　助教　海老澤隆史

平成30年度決算報告

学校法人東京聖栄大学

本学の平成30年度末における財務の概況は、次のとおりです。

収入は、主な財源の学生生徒等納付金収入が、入学定員の確保により安定しております。

一方、支出は、人件費をはじめ、支出抑制を行っており、30年度の目標である収支均衡による財政健全化に努めており、30年度決算では、基本金組入前当年度収支差額（旧：帰属収支差額）は、2,530万円の収入超過（黒字）となり、８期連続で収入超過の実績を収めることができました。

１．資金収支計算書

平成30年度の資金収支規模は、26億5,740万円となりました。前年度より９億3,350万円減少していますが、有価証券の早期償還に伴う売買８億円及び高額の退職者が少なかったことが原因です。

前年度繰越支払資金を除く当年度の収入額は13億7,390万円で、支出額は14億2,280万円となり、4,890万円の支出超過となりました。

資金収支計算書（平成30年４月１日から平成31年３月31日まで）　（単位　千円）

	科目	予算	決算	差異
収入の部	学生生徒等納付金収入	1,088,134	1,088,310	△176
	手数料収入	21,068	21,066	2
	寄付金収入	6,050	6,080	△30
	補助金収入	152,527	154,877	△2,350
	国庫補助金収入	104,352	104,352	0
	都県補助金収入	45,531	47,882	△2,351
	区市補助金収入	2,644	2,643	1
	資産売却収入	942	942	0
	付随事業・収益事業収入	14,713	14,212	501
	受取利息・配当金収入	37,955	37,973	△18
	雑収入	19,053	19,201	△148
	借入金等収入	0	0	0
	前受金収入	477,009	473,209	3,800
	その他の収入	57,619	57,706	△87
	資金収入調整勘定	△496,596	△499,712	3,116
	前年度繰越支払資金	1,283,538	1,283,538	
	収入の部合計	2,662,012	2,657,402	4,610
	科目	**予算**	**決算**	**差異**
支出の部	人件費支出	720,227	724,444	△4,217
	教育研究経費支出	273,672	278,735	△5,063
	管理経費支出	104,850	103,458	1,392
	借入金等利息支出	1,540	1,540	0
	借入金等返済支出	12,220	12,220	0
	施設関係支出	7,381	7,380	1
	設備関係支出	59,163	58,793	370
	資産運用支出	230,000	231,463	△1,463
	その他の支出	19,608	28,768	△9,160
	〔予備費〕	10,000		10,000
	資金支出調整勘定	△20,853	△23,996	3,143
	翌年度繰越支払資金	1,244,204	1,234,598	9,606
	支出の部合計	2,662,012	2,657,402	4,610

２．事業活動収支計算書

事業活動収入は13億4,300万円で、事業活動支出は13億1,770万円であり、基本金組入前当年度収支差額は2,530万円の収入超過（事業活動収支差額比率1.9%）となりましたが、基本金組入額（6,820万円）を控除した当年度収支差額は4,290万円の支出超過となりました。（基本金組入後収支比率103.4%）

前年度からの繰越収支差額は５億2,670万円とやや支出超過額が増加しました。

事業活動収支計算書（平成30年４月１日から平成31年３月31日まで）（単位　千円）

	科目	予算	決算	差異
教育活動収支	事業活動収入の部			
	学生生徒等納付金	1,088,134	1,088,310	△176
	手数料	21,068	21,066	2
	寄付金	6,765	6,794	△29
	経常費等補助金	152,527	154,877	△2,350
	国庫補助金	104,352	104,352	0
	都県補助金	45,531	47,882	△2,351
	区市補助金	2,644	2,643	1
	付随事業収入	11,713	11,189	524
	雑収入	19,053	19,210	△157
	教育活動収入計	1,299,260	1,301,446	△2,186
	事業活動支出の部			
	人件費	721,154	725,370	△4,216
	教育研究経費	462,022	467,644	△5,622
	管理経費	112,190	110,772	1,418
	徴収不能額等	2,584	2,583	1
	教育活動支出計	1,297,950	1,306,369	△8,419
	教育活動収支差額	1,310	△4,923	6,233
	科目	**予算**	**決算**	**差異**
教育活動外収支	事業活動収入の部			
	受取利息・配当金	34,711	34,730	△19
	その他の教育活動外収入	3,000	3,000	0
	教育活動外収入計	37,711	37,730	△19
	事業活動支出の部			
	借入金等利息	1,540	1,540	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	1,540	1,540	0
	教育活動外収支差額	36,171	36,190	△19
	経常収支差額	37,481	31,267	6,214
	科目	**予算**	**決算**	**差異**
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	931	931	0
	その他の特別収入	2,873	2,907	△34
	特別収入計	3,804	3,838	△34
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	11,466	9,801	1,665
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計	11,466	9,801	1,665
	特別収支差額	△7,662	△5,963	△1,699
	予備費	6,000	0	6,000
	基本金組入前当年度収支差額	23,819	25,304	△1,485
	基本金組入額合計	△42,250	△68,223	25,973
	当年度収支差額	△18,431	△42,919	24,488
	前年度繰越収支差額	△483,773	△483,773	0
	基本金取崩額	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△502,204	△526,692	24,488

3．貸借対照表

30年度末の資産総額は680万円減の98億6,700万円です。固定資産は8,390万円増の86億2,150万円になり、流動資産は9,080万円減の12億4,550万円となりました。

負債総額は、借入金返済などで3,220万円減少し、９億3,050万円となりました。

純資産は2,530万円増の89億3,650万円となり、財政としては良好な状況です。

貸借対照表（平成31年３月31日）　（単位　千円）

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	8,621,531	8,537,593	83,938
有形固定資産	5,449,521	5,585,753	△136,232
土地	1,889,389	1,889,400	△11
建物	3,072,917	3,203,530	△130,613
その他の有形固定資産	487,215	492,823	△5,608
特定資産	500,050	468,631	31,419
その他の固定資産	2,671,960	2,483,209	188,751
流動資産	1,245,502	1,336,288	△90,786
現金預金	1,234,598	1,283,538	△48,940
その他の流動資産	10,904	52,750	△41,846
資産の部合計	9,867,033	9,873,881	△6,848

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	373,174	384,469	△11,295
長期借入金	61,100	73,320	△12,220
その他の固定負債	312,074	311,149	925
流動負債	557,369	578,226	△20,857
短期借入金	12,220	12,220	0
その他の流動負債	545,149	566,006	△20,857
負債の部合計	930,543	962,695	△32,152
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	9,463,183	9,394,960	68,223
第１号基本金	9,355,183	9,296,960	58,223
第２号基本金	20,000	10,000	10,000
第４号基本金	88,000	88,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△526,692	△483,773	△42,919
純資産の部合計	8,936,491	8,911,187	25,304
負債及び純資産の部合計	9,867,033	9,873,881	△6,848

4．財産目録

資産総額98億7,400万円の内訳は、基本財産55億3,000万円（56.0％）、運用財産40億1,200万円（40.6％）、収益事業財産３億3,100万円（3.4％）となっています。

また、負債総額９億3,600万円の内訳は、固定負債３億7,300万円、流動負債５億5,700万円、収益事業用負債520万円となっています。資産総額から負債総額を差引いた正味財産は89億3,800万円で、前年度比2,500万円増となりました。

財産目録　30年度（総括表）（平成31年３月31日現在）　（単位　千円）

Ⅰ資産総額	9,873,612
内 基本財産	5,530,281
運用財産	4,012,344
収益事業財産	330,987
Ⅱ負債総額	935,715
Ⅲ正味財産	8,937,897

区分	金額	
資産額		
１．基本財産	5,530,281	
有形固定資産	5,449,521	
土地		1,889,389
建物		3,072,917
構築物		44,353
教研機器備品		254,290
管理用機器備品		13,450
図書		175,122
車両		0
特定資産	20,000	
第2号基本金引当特定資産		20,000
その他の固定資産	60,760	
借地権		59,900
電話加入権		860
２．運用財産	4,012,344	
現金預金		1,234,598
定期預金		530,000
有価証券		1,747,714
差入保証金		9,078
退職給与引当特定資産		27,972
減価償却引当特定資産		452,078
未収入金		8,351
販売用品		32
前払金		2,259
立替金		38
仮払金		224
３．収益事業用財産	330,987	
土地		185,313
建物		129,317
構築物		237
現金預金		16,120
資産の部合計（A）	9,873,612	

負債額		
１．固定負債	373,174	
長期借入金		61,100
退職給与引当金		312,074
２．流動負債	557,369	
短期借入金		12,220
未払金		21,345
前受金		473,209
預り金		43,933
研修旅行費預り金		6,661
３．収益事業用負債	5,172	
未払法人税		172
預り保証金		5,000
負債の部合計（B）	935,715	

正味財産（A）－（B）	8,937,897

５．５ヵ年連続事業活動収支計算書（旧：消費収支計算書）

平成27年度から学校法人会計基準の改正に伴い平成26年度まで作成していた消費収支計算書は、平成27年度から事業活動収支計算書に替わりました。

平成26年度の消費収支計算書及び27年度から30年度までの事業活動収支計算書は、別表のとおりです。

消費収支計算書（26年度）

	平成26年度		全国平均
	金　額	構成比率	医歯系を除く
収入の部	千円	%	%
学生納付金	1,173,056	81.5	69.5
手数料	22,737	1.6	2.3
寄付金	10,714	0.7	3.9
補助金	147,682	10.3	12.2
資産運用	49,610	3.4	2.5
資産売却差額	21	0.0	1.8
事業収入	18,939	1.3	4.8
雑収入	16,348	1.1	2.9
帰属収入	1,439,107	100.0	100.0
基本金組入額	△229,631	△16.0	△13.6
消費収入合計	1,209,476	84.0	86.4
支出の部			
人件費	705,740	49.0	50.9
教育研究経費	491,096	34.1	31.2
（うち減価償却額）	(196,362)	(13.6)	(9.6)
管理経費	109,686	7.6	9.0
（うち減価償却額）	(9,739)	(0.7)	(1.1)
借入金利息	2,419	0.2	0.2
資産処分差額	18,718	1.3	1.5
徴収不能額	2,220	0.2	0.1
〈予備費〉			
消費支出合計	1,329,879	92.4	92.8
当年度消費収支差額	△120,403		
前年度繰越消費収支超過額	△319,678		
基本金取崩額			
翌年度繰越消費収支超過額	△440,081		
人件費依存率		60.2	73.3
人件費比率		49.0	50.9
帰属収支差額比率		7.6	7.2
消費収支比率		110.0	107.5

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」大学法人（医歯系を除く）26年度

４ヵ年連続事業活動収支計算書（30年度）

	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		全国平均
	金　額	構成比率	金　額	構成比率	金　額	構成比率	金　額	構成比率	医歯系を除く
（教育活動収支・収入の部）	千円	%	千円	%	千円	%	千円	%	%
学生納付金	1,117,494	79.8	1,114,035	80.3	1,094,484	76.0	1,088,310	75.6	72.6
手数料	22,666	1.6	20,280	1.5	20,328	1.4	21,066	1.5	2.6
寄付金	3,730	0.3	6,374	0.5	8,153	0.6	6,794	0.5	1.4
経常費等補助金	144,752	10.3	141,674	10.2	164,104	11.4	154,877	10.8	11.8
付随事業収入	10,605	0.8	11,814	0.9	11,658	0.8	11,189	0.8	3.8
雑収入	37,279	2.7	15,371	1.1	91,646	6.4	19,210	1.3	3.2
教育活動収入計	1,336,526	95.5	1,309,548	94.4	1,390,373	96.6	1,301,446	90.4	95.4
（教育活動収支・支出の部）									
人件費	718,956	51.4	724,760	52.2	837,000	58.2	725,369	50.4	52.2
教育研究経費	469,796	33.6	464,868	33.5	458,985	31.9	467,644	32.5	32.3
管理経費	107,821	7.7	115,042	8.3	122,802	8.5	110,772	7.7	8.5
徴収不能額等	4,060	0.3	667	0.0	0	0.0	2,583	0.2	0.1
教育活動支出計	1,300,633	92.9	1,305,337	94.1	1,418,787	98.6	1,306,368	90.8	93.1
（教育活動外収支・収入の部）									
受取利息・配当金	53,127	3.8	55,053	4.0	43,374	3.0	34,729	2.4	1.6
その他の教育活動外収入	3,200	0.2	2,700	0.2	2,500	0.2	3,000	0.2	0.2
教育活動外収入計	56,327	4.0	57,753	4.2	45,874	3.2	37,729	2.6	1.8
（教育活動外収支・支出の部）									
借入金等利息	2,199	0.2	1,980	0.1	1,760	0.1	1,540	0.1	0.2
その他の教育活動外支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.1
教育活動外支出計	2,199	0.2	1,980	0.1	1,760	0.1	1,540	0.1	0.2
（特別収支・収入の部）									
資産売却差額	0	0.0	0	0.0	0	0.0	931	0.1	1.1
その他の特別収入	7,117	0.5	20,076	1.4	2,968	0.2	2,907	0.2	1.7
特別収入計	7,117	0.5	20,076	1.4	2,968	0.2	3,838	0.3	2.8
（特別収支・支出の部）									
資産処分差額	2,065	0.1	455	0.0	14,751	1.0	9,801	0.7	1.4
その他の特別支出	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.2
特別支出計	2,065	0.1	455	0.0	14,751	1.0	9,801	0.7	1.6
基本金組入前当年度収支差額	95,073	6.8	79,605	5.7	3,917	0.3	25,304	1.8	4.9
基本金組入額合計	△47,239	△3.4	△145,910	△10.5	△71,138	△4.9	△68,223	△4.7	△10.8
当年度収支差額	47,834	3.4	△66,305	△4.8	△67,221	△4.7	△42,919	△3.0	△ 5.8
前年度繰越収支差額	△440,081	△31.4	△392,247	△28.3	△416,553	△28.9	△483,773	△33.6	△74.3
基本金取崩額	0	0.0	42,000	3.0	0	0.0	0	0.0	3.1
翌年度繰越収支差額	△392,247	△28.0	△416,552	△30.0	△483,774	△33.6	△526,692	△36.6	△77.0

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団「今日の私学財政」大学法人（医歯系を除く）29年度

東京聖栄大学　教育研究施設設備充実募金のお願い

本学は平成17年４月、聖徳栄養短期大学を改組して東京聖栄大学を創立以来、社会の急激な変遷に対応して、着々と健康・栄養・食品の教育に関わる大学としての基盤整備確立に努力し、その成果を挙げてまいりました。

また昨年は、７年に一度の大学機関別認証評価について受審し、「評価基準に適合している」と認定されました。これも偏に皆様方のご支援、ご協力の賜物と感謝いたしております。

本学におきましては、予てから教育研究の環境整備充実を図り、更なる高度化推進を実現するため、「教育研究施設設備充実」の寄付募金を行ってきました。

この寄付募金は財政基盤の強化の一環として、広く内外の学園関係者に呼びかけ、積極的に募金活動を実施いたしており、例年募金にご協力くださいまして誠に有難うございました。

つきましては、現在の厳しい社会・経済情勢のもとでのお願いで誠に恐縮ではございますが、何卒、ご理解を賜り、募金要綱等をご覧いただきまして、寄付募金にご協力くださいますよう衷心よりお願い申し上げます。

なお、この寄付金は、**個人の場合は**特定公益増進法人への寄付金として**所得税法による減免税措置（税額控除）が受けられます。**また、**法人の場合は、**日本私立学校振興・共済事業団の**受配者指定寄付金として、寄付金の全額を損金に算入することができます。**

募金要綱

１．目　　的：教育・研究に要する経常的経費に充当するため
２．募金目標額：１千万円
３．寄 付 金 額：１口　１万円
４．募 集 期 間：令和２年３月末まで
５．申込書、振込方法：本学所定の用紙をご利用ください

◎この寄付金は任意でありますが、何卒ご協力くださいますようお願いいたします。

◎この募金は、個人の場合は所得税法により税額控除が受けられます。法人の場合は受配者指定寄付金として全額損金に算入することができます。詳細については下記にお問い合わせください。

学校法人東京聖栄大学事務局財務課募金係　TEL 03－3692－0211㈹

募金申込状況

平成20年度から30年度までの募金申込状況は下表のとおりです。

この募金は、別口座に積み立てられ募金の趣旨に則り、有意義に活用させていただきます。

年度	申込件数	金額（円）
平成20年度	28	5,700,000
21年度	18	4,100,000
22年度	53	7,665,000
23年度	50	6,790,000
24年度	110	7,910,000
25年度	130	8,395,435

年度	申込件数	金額（円）
26年度	137	6,855,000
27年度	139	8,280,000
28年度	109	5,935,000
29年度	95	6,490,000
30年度	73	5,930,000
総　　計	942	74,050,435

東京聖栄大学附属わたなべ幼稚園の活動

今年も夏のお泊り会が、年長さんの健やかな成長ぶりを見せて無事終了いたしました。

お泊り会の時期になりますと、心配で夜泣きが始まったり、幼稚園へ登園するのを渋ったりするお子さんが出てまいります。お子さんの心配をわかりつつ担任達は愉しい事の話題に大いに触れ、期待に胸が弾むよう苦心いたします。何しろ親元から初めてはなれてお泊りをするのですから。

その様な中、当日を迎え、お友達との会話に花を咲かせ、サイエンスショーに見入って楽しいひと時を過ごしました。夕飯のカレーライスの材料を切ったりして夕食作りに参加し、皆でおいしい夕食を堪能しました。皆での布団敷きや花火大会、映画鑑賞など、沢山の「初めて」を体験しました。

そしていよいよ就寝。みんなと一緒に布団に入り、いざとなるとシクシク悲しくなって泣いてしまうお子さんも出てきます。興奮して寝付けないお子さん達に寄り添い、担任達は大忙しです。

翌日は泣いたこともすっかり忘れ、元気に起床しさわやかな顔で、朝の支度、布団の片づけ、体操、そして朝食と「自分ですること」を沢山体験し、自信にあふれた笑顔で降園支度をしていました。

お泊り会など特別な体験だけではなく、日々の暮らしの中で園児たちは新しい発見や喜び又は、悲しみや嫌な思いなどを経験しながら成長していく姿を見せてくれています。その体験の一つ一つがそれぞれのお子さんの知恵となり、宝となって成長の糧になっていくことと思います。毎日の暮らしをもう一度子ども達と一緒に真摯に向き合っていきたいと思いました。

東京聖栄大学附属調理師専門学校の活動

平成30年度は、東京聖栄大学との連携強化の一貫として基礎調理技術講習会を９月と２月に４日間ずつ行い、大学の調理施設と多目的ホールを利用し大学生及び教職員を対象とした集団調理実習を日本料理、西洋料理、中国料理のメニュー構成でそれぞれ500円（ワンコインランチ）で食数限定にて提供し大盛況でした。本年度も引き続き実施を予定しております。

昨年度、後半からは文部科学省が策定・公表した「専門学校における学校評価ガイドライン」に添った自己点検の取り組みを開始し自己評価報告書を作成いたしました。３月には学校関係者評価も無事に終了いたしました。本年度はカリキュラムの一部変更も行いましたので、各教科のシラバスと共にホームページに公開しております。

さらに、専門学校のホームページ及び実習服（コックコート）のデザインも刷新し、本校のイメージアップにも努めています。

生徒募集においては日本の飲食店で働くことを希望している外国人留学生の受け入れも積極的に行い、今まで実績のないミャンマー、ベトナムからも受け入れました。

その他としては高等教育無償化制度への適切な対応にも着手しています。

６月には宮城県石巻市で日本料理「いまむら」を営んでいる卒業生の今村正輝（43期生）さんを招いての特別調理講習会を実施しました。今村さんは東日本大震災を機にボランティアとして復興活動に参加し、現地で知り合った仲間と手作りで飲食店を開業し数々のメディアにも取り上げられ現在も活躍中です。今回は石巻の食材（海鞘、穴子）を使用したメニューでの料理と現在に至るまでの活動内容についての話を交えた講習会となり有意義に感じた生徒も多かったようです。

大学トピックス

HACCPワークショップの実施

令和元年９月９日（月）～11日（水）の３日間にわたり、日本食品保蔵科学会HACCP管理者資格認定制度による、HACCPワークショップが本学（５号館521教室）にて開催されました。このワークショップは、食の安全に関わるHACCP管理者の認定、知識と技術の向上を促すことを目的に実施しています。

今年は、管理栄養学科・食品学科の３、４年次生35名が受講し、講義と演習を通じて食品等に関わる衛生管理の理解を深める有意義な機会となりました。なお本講習後、認定申請および審査を経て日本食品保蔵科学会に承認されると、HACCP管理者として認定証が交付されます。

この資格は、食品衛生法第13条に定められた「総合衛生管理製造過程に関する承認」に必要とされるHACCPシステムについて相当程度の知識をもつと認められる者に認定されます。

※HACCPとは、Hazard Analysis Critical Control Point の頭文字からとったもので、「危害分析重要管理点」と訳されています。食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因（ハザード）を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようする衛生管理の手法です。

HACCPワークショップでの演習（班別発表）

令和２年度 東京聖栄大学 学生募集要項（抜粋）

東京聖栄大学　健康栄養学部（共学）/管理栄養学科・食品学科（募集定員は両学科とも80名）

フードサイエンスコース・フードビジネスコース

入試区分		試験日	選抜方法
AO入試（Ⅱ期は食品学科のみ）	Ⅱ期	令和元年 9月28日(土)	調査書、大学入学希望理由書、面接、模擬授業受講感想文
指定校制推薦入試		令和元年11月 3日(日)	調査書、面接
公募制推薦入試			調査書、面接、入学基礎テスト
専門学科･総合学科推薦入試			
卒業生子女等推薦入試			調査書、志望理由書、面接、入学基礎テスト
自己推薦入試		令和元年12月15日(日)	調査書、面接、基礎学力検査
社会人入試	Ⅰ期	令和元年12月15日(日)	調査書、経歴書、面接、学力検査
	Ⅱ期	令和２年 2月20日(木)	

入試区分		試験日	選抜方法
一般入試	Ⅰ期	令和２年 1月24日(金)	学力試験
	Ⅱ期	令和２年 2月 2日(日)	
	Ⅲ期	令和２年 2月20日(木)	
大学入試センター試験利用入試	Ⅰ期	令和２年 1月18日(土) 1月19日(日)	大学入試センター試験成績（令和2年度・平成31年度大学入試センター試験成績利用可） ＊本学独自の試験は課しません。
	Ⅱ期		
	Ⅲ期		

＊専門学科・総合学科推薦入試は、高等学校の農業科・家庭科・その他総合学科等専門学科で食品及び栄養関連の専門科目を履修した方対象入試です。
＊一般入試、大学入試センター試験利用入試については、本学インターネット出願サイトを利用して願書提出をする事が可能です。
＊各入試の出願期間・選抜方法等詳細については、本学ホームページ並びに「令和２年度学生募集要項」にてご確認ください。

受験相談会
～推薦入試受験対策講座～
9/22(日) 【開催時間】：13：00 ～ 16：00＊要予約

受験相談会
～当日は、聖栄葛飾祭と同日開催～
11/ 9(土) **11/10(日)** 【開催時間】＊要予約
（午前の部）10：00 ～ 12：00　（午後の部）13：00 ～ 15：00

＜お問い合わせ先＞　入試・広報課　TEL：03-3692-0238（直通）　E-mail nyushi@tsc-05.ac.jp

発行　東京聖栄大学　〒124-8530　東京都葛飾区西新小岩 １－４－６
TEL：03-3692-0211（代）　URL https://www.tsc-05.ac.jp/